

本資料は、著作権法の保護対象物です。
著作権を侵害する一切の行為を禁じます。

当研究室の研究紹介

多胎児をもつ母親の不安状態と関連要因についての検討
単胎児の母親との比較分析から

大阪市立大学大学院看護学研究科
横山美江



❖ 研究報告 2 ❖

多胎児をもつ母親の不安状態と関連要因についての検討

単胎児の母親との比較分析から

(2008年の日本公衆衛生雑誌に掲載された論文の内容をまとめたものです)

はじめに

多胎児家庭での育児問題として、情報不足、人手不足、経済的な負担、お母さま方の時間的なゆとりのなさが指摘されています。また、多胎児をもつお母さま方は、単胎児をもつお母さま方に比べて疲労感が強く、睡眠状態が悪化しており、多胎児をもつお母さま方は過酷な状況で育児に追われていることがわかってきています。このような育児環境があるなか、多胎児をもつお母さま方は、単胎児をもつお母さま方に比べて育児不安をより強く感じていると推察されます。

そこで本研究では、育児不安を育児期のお母さま方の不安状態として捉え、多胎児をもつお母さま方の不安状態を、単胎児をもつお母さま方との比較から分析し、それらに関連する要因について検討しました。

調査の対象として、A市の4か月児健康診査を受診し、調査時点で3歳以下の子どもをもつお母さま方で本研究の趣旨に賛同してくださった方に協力していただきました。多胎児をもつお母さま方130名と単胎児をもつお母さま方860名です。

お母さま方の不安の程度は日本語版 STAI（不安を測定する尺度）を使用しました。この尺度には測定時点での一時的・状況的な不安の強さを表す「状態不安」と、不安になりやすい個人の特徴（特性）を表す「特性不安」があります。

調査の内容は、主観的不安の程度として、妊娠中の不安、今後の育児に対する不安、また育児背景要因として、妊娠中の育児に対するイメージ、お母さま方の体調、睡眠状態、ストレス解消法の有無、育児サークルの参加状況、育児協力者の有無についてです。



結果

多胎児をもつお母さま方では、「状態不安」において不安が強いと判定された方々の割合が単胎児をもつお母さま方に比べて高いことがわかりました。一方、「特性不安」での不安の強弱では多胎児をもつお母さま方と単胎児をもつお母さま方では明らかな差は認められませんでした。(図1)

また、多胎児をもつお母さま方は、単胎児を持つお母さま方に比べて、妊娠中に不安を感じた方、ストレス解消法がない方の割合が高いこともわかりました。(図2)

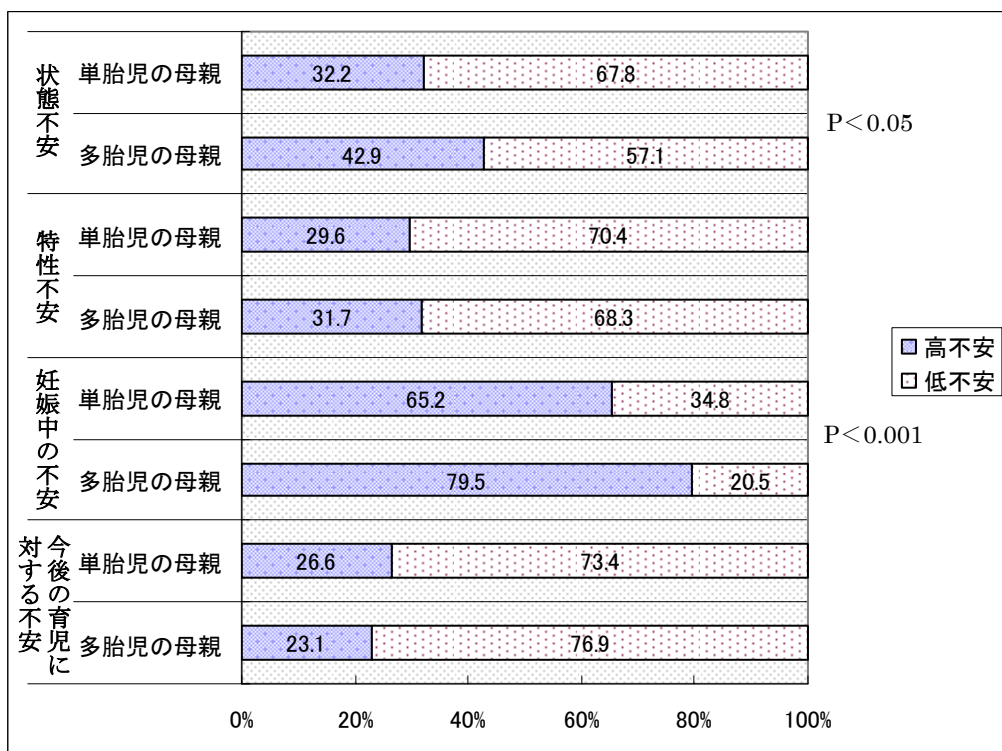


図1 単胎児・多胎児別母親の不安の程度

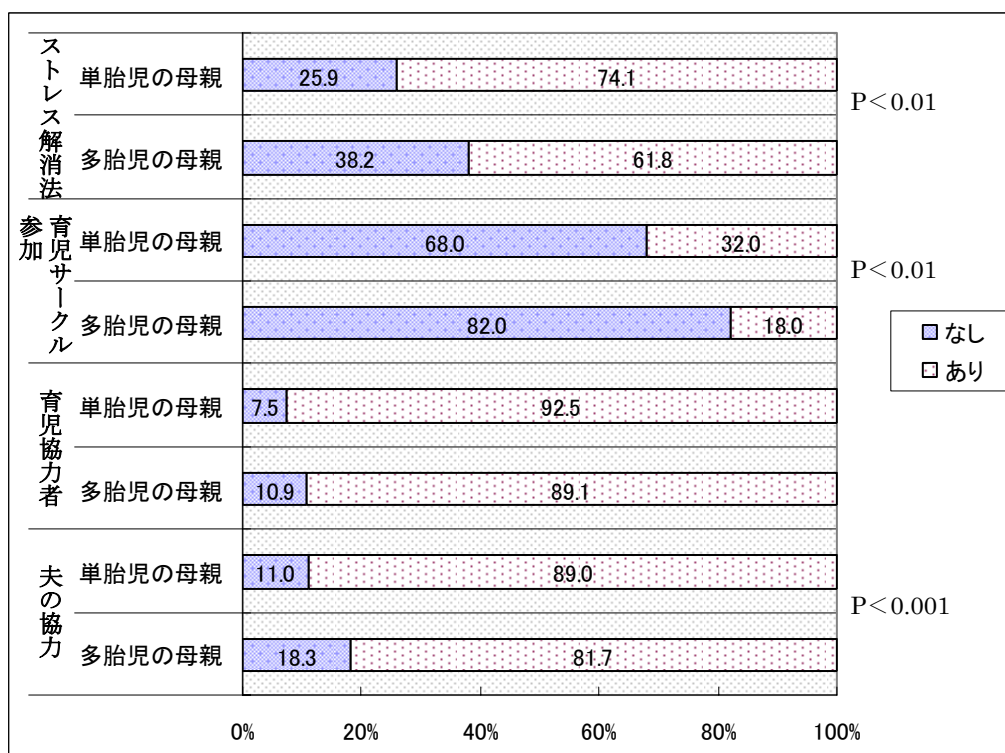


図2 単胎児・多胎児別母親の育児背景

詳細な分析の結果、「状態不安」の高不安には多胎児であること自体は関連しておらず、妊娠中に不安を感じたこと、今後の育児に対して不安があること、お母さま方の体調不良・睡眠不足を強く感じていること、ストレス解消法がないこと、兄弟姉妹がいることが関連していることがわかりました。

まとめ

多胎児をもつお母さま方は、単胎児をもつお母さま方に比べて不安を抱きやすい状況であることがわかりました。また、多胎児であること自体がお母さま方の不安を強くするのではなく、お母さま方を取り巻く育児環境に問題があることも明らかになりました。3歳以下の多胎児をもつお母さま方の不安を軽減するためには、妊娠中からのサポート体制を整備し、ストレス解消法の提案など、お母さま方の身体的な負担を軽くするための具体的なサービスの提供が必要であると考えられます。

